

東中國キリスト者

障害を共に学び共に担う会



第一五九号

二〇一三年九月一八日発行

目次

説教 鳥取教会 牧師 横山順一 (1)

鳥取支部だより 幾野裕昭 (4)

海とDDT 加藤和枝 (5)

皆さんからの投稿

栗原正・成木書子・島村洋子・料治睦美

会計報告 宮脇俊昭 (9)

編集後記 難波幸矢 (10)

説教

日本基督教団 鳥取教会 牧師
横山 順一

「ちやまぜ、バンザイ！」

創世記 11章1~9

ジグソー・パズルから

私が以前いた教会の時のことです。教会の青年たちが私に、誕生日のプレゼントとしてジグソー・パズルをくれました。それは16世紀オランダの画家ピーター・ブリューゲルが描いた「バベルの塔」の絵のパズルでした。

確かに3000ピースぐらいの結構な量のジグソー・パズルで、根気のない私にはとてもやる気が起こりませんでした。青年会の奴らめ、意地悪か?と内心腹を立てたくらいでした。

2017年に、そのバベルの塔の絵が日本にきましたね。東京と大阪で絵画展が行われました。大阪では中之島の国立美術館で、私は関西にいましたから行きました。行った方いらっしゃるでしょうか?

権力者ならできる

今日読んだ聖書の箇所が、まさにこのバベルの塔の物語の箇所でした。そこには、「さあ、天まで届く塔のある町を建て、有

知っている方もいるかと思いますが、あの絵、実はびっくりするくらい小さいんです。ジグソー・パズルは大きかつたのに、現物は誠に小さい。でももつとびっくりするのは、その小さい絵の中に、色んなものが精緻に精密に描き込まれていることです。真実を認めようとする熱意を感じました。

青年会にもらつたジグソー・パズルは、結局やる気が起こらないので、本棚に飾っていました。それで見るとはなしに、毎日のように眺めているうちに、ふと気づいたのが、塔の下で、兵士たちに槍で脅され、鞭でしばかれながら働かされている人々の姿でした。その時は、それほど深く気に留めた訳ではなかつたんですが、美術展に行って再び思い起した訳です。小さいけど、確かに、しつかり描かれていました。ああ、そうだ、そりやそりや、ということでした。

名になろう。そして、全地に散らされることのないよう「しょう」と、塔を建てた目的が記されました。4節です。

確かに、人は誰でも有名になりたいという欲望を持っていることでしょう。それを達成したらその地位を保持し続けたいとも願います。気持ちはよく分かります。ただ多くの場合、それはあくまでも願望であつて、それを実際実行に移せる人は限られていると思うのです。この塔が建てられたシナリオという方は、一つ前の20章を読むと、ニムロドという人が治めた地方で、彼の王国の主な町は、「バベル」だとはつきり書かれています。

10章の9節に「ニムロドは地上で最初の勇士となつた」という一文があります。が、問題はその「勇士」という訳です。聖書はたつた一つの単語の訳で随分イメージが変わるので、この単語は、一つ前の口語訳聖書では「地球上で最初の権力者」となつたと訳されているんです。今も幾つかの聖書では、そう訳されています。勇士というより、権力者と訳すほうが正しいと思われます。

ああそりだよな、というのは「これのことなんです。多くの人は、例え有名になりたいと思つても現実には実行できません。手段がないからです。でも地位があり、お金を持ち、部下を持ち、使用人を持ち、たくさんの方を持つていて支配者、権力者なら可能です。

塔を建てて「有名になろう」という部分は、岩波書店版の聖書では、「われら自ら名をなそう」と訳されています。一生懸命努力した末、結果的に知名度が上がるということではなく、端から、自ら名をなしたかった訳です。

この物語の前には、ノアの箱舟の出来事が書かれています。神さまは一度と洪水など起こして人間を滅ぼさないと約束された出来事でした。それに続いてバベルの塔の物語が記されているには、きっと意図があるのです。どうしても自分の力に頼ろうとする人間の弱さについてです。特にたくさんの方を持つていて権力者、人間の力に頼る人は神さまの「もう滅ぼさない」という約束を信じることができなかつたの

権力者のなすこと

今日のテキスト1節には「世界中は同じ言葉を使って、同じように話していた」とありました。外国語が不得手な私は、読んだ当初は羨ましかった記述です。世界中が初めから同じ言葉だったなら、英語やドイツ語なんかでみんなにも苦しめられることはなかつたはず。気楽に世界を旅行もできただけでなく、塔なんか作ろうとしたから天罰が下されたのだ、そんな風に受け止めていました。

でも事はそう単純ではないのです。塔建築を実際に取り組んだのは権力者ニムロドでした。もし天まで届くような高い塔を作ろうとしたら、大勢の民衆を使って建てねばなりません。そうでないとできません。そして速やかに命令を実行させようとしたら、あれこれ言葉があると不都合になります。だから統一するのです。言葉だけではなく、やり方も一つとします。「同じ言葉を使って、同じように話していた」という

です。だから、「全地に散らされる」とのないよう「しょう」と結束を固めたのです。

のはそのことを指しているのだと思いま
す。かつて日本が台湾や朝鮮を支配してい
た時も、日本語を強要し、日本方式を強制
しました。暴力をふるい、強圧的に働かせ
ました。そうして多くの人たちがとてつも
ない苦労を強いられたのでした。

神さまの本意

ですから、神さまが怒ってバベルの塔を
壊されたのは、当然のことだったのです。

権力者のもとで、苦役を強いられた多くの

人々の人生をこそ神さまは目に留められ、
深く憐れられたのです。塔が壊されて、
人々に自由が与えられました。解放されま
した。そしてたくさんの言葉が生まれまし
た。

それは、強制されるのではなく、みんなそ
れぞれ自由に話して良い、自分の言葉を使

つて良い、思い思ひに生きて良いという、
神さまの思いだつたのだと信じます。9節
に「主がそこで全地の言葉を混乱させ、ま
た主がそこから彼らを全地に散らされた」
とあります。そのバラルと言う言葉。混乱
と訳してありますが、調べてみると「ち
ち」と「ち」と書かれています。

「やませ」という意味があるのです。似てい
るようで、混乱と「ちやませ」は違います。
混乱は良いことではありませんが、「ちや
ませ」は悪いことではないのです。

これ、建物のことに限りません。権力者
が何事かをたくらみ、現実化しよう、それ
を維持しようと計画する時、現代では法律
で人々を縛ります。一つの生き方を上から
強要しようとします。歴史はそんな例に満
ちています。

自分の言葉で語る

私は鳥取に来るまで、関西で20年近く釜

ヶ崎の日雇い労働者の人権を守る運動に

関わりました。詳しく話す時間は、今日は

ないので、日本最大の日雇労働者の街、

大阪の釜ヶ崎、そこに住むホームレスも

含めた日雇労働者の人たちの人権があら

ゆる方面から脅かされているのです。関西

を離れた今も、どうにかしたいと思つてい

ます。でも、関わった最初の頃は関りがぎ

くしゃくしていました。彼らの言葉が理解

できなかつたからです。それは私の理解力

の乏しさの故です。釜ヶ崎ではしょっちゅ

う何かの問題が起こり、行動しなければな
らないことが起きます。私は、最初の頃は、
行動するには、状況をまずはよく調べてか
らにしましよう、と言つていました。でも
彼らは違うのです。一人の労働者が言いま
した。「あんな兄ちゃん。足踏まれたら、
即痛いって言わななんらんのやで。声挙げな
わしら消されてしまうのやで。」それは、
今を生きるという実存をかけた叫びでし
た。私は、彼らの言葉を全く知らなかつた
のです。

イエスの元に子どもを連れてやつてき
た人たち、恐らく母親たちがいました。弟
子たちが拒絶しました。イエスはそれを厳
しく叱りました。弟子たちが女性の声、子
どもの声を聞こうとしなかつたからです。

聖書は、こんな出来事を幾つも記していま
す。

聖書は、私たちのこの世の現状とは違つ
世界を指し示しているのです。約束の聖霊
が与えられた時、弟子たちが様々な言葉で
語り出したと、使徒言行録に書かれていま
す。自分の言葉で語ろうということです。

それはみんなそれぞれの人生があり、自由に生きて良いという出来事でした。

私たちは、一人ひとり自由に生きて良い、そして違ひを互いに覚えあおう、そんな思いを持つて神さまは人々をバラル、ごちやまぜにされたのです。違う言葉を使うからこそ、私たちはそれを聞こうと務めるのでしよう。単に外国語に耳を傾けるということではなく、別の生き方に聞こう、受け入れ合おうということだと思います。聖書にはこんなはるか昔から、多様性が良いのだ、大切なのだと記されていました。ですから、ごちやまぜ、バンザイ！です。



鳥取支部だより

鳥取支部・支部長

日本基督教団 鳥取教会

幾野 裕昭

員に依頼し、次回役員会で最終決定とする

⑥ その他

総会出席者の交通費について

賛成多数で支給する

支部総会出席者にも全員支給する

それぞれ承認を得、総会を終了

2023年度鳥取支部総会報告
期日 2023年7月7日

場所 日本基督教団 鳥取教会

支部長感話

① 会員数（65名）出席者（17名）
委任状（33名）総計（50名）
総会成立

② 議長 松岡義人（日キ 鳥取教会）
書記 岡田祐子（日キ 八頭教会）
③ 2022年度行事報告・収支決算報告
④ 2023年度行事計画・予算案
◎講演と交わりの会は教区行事との関係
で現時点では未定

◎春の日集会は開催の予定で検討

⑤ 役員改選

難波会長より全員留任の意見あり、賛否同数により議長が全員留任を2年度役

です。
和教会に着任された塚本望牧師も出席してくださいました。三浦先生は所用のため礼拝のみでしたが、塚本牧師は総会・交わりの会にも出席してくださいました。感謝です。

総会のメーン議題は鳥取教会（又は湖山教会）開催時の支部総会旅費規程の決定と役員改選でした。支部総会旅費規定は倉吉上井教会開場時の規定に準じたものを提示して、ほぼ全員の賛成を得ました。役員改選は、現役員の高齢化（最年少9歳）に鑑み、原案を提示せず若返りをお願いしたのですが、難波会長の終生現役の意見を踏まえて全員留任で採決し、賛否同数。議長権限で現役員に留任をお願いし、次回役員会で最終決定、としました。

楽しく歓談しながらの昼食の後、交わりの会を持ちました。4年ぶりの事とて自己紹介に多くの時を費やし、私の聞きたかった今後の活動についてあまり深く意見交換できなかつたのが残念です。楽しい時間はあつという間に過ぎ去り、汽車（ティーゼルエンジンの山陰線・因美線・智頭鉄道は正しくは汽車でも電車でもない？…では何？列車？）の時間もあつて1時間半の時間を厳守。みな慌ただしく教会をあとにし、私も交わりの会終了後に支部役員会を設定していたのを忘れてしまつていきました！ 申し訳ありません。

総会のメーン議題は鳥取教会（又は湖山

海とDDT

日本基督教団 鳥取教会

加藤 和枝

ロシアによるウクライナ侵攻が始まつて1年以上たちました。終息するどころか、ますます激しくなるのではないかという気もします。一方、日本政府は平和主義と言いたのですが、難波会長の終生現役の意見を踏まえて全員留任で採決し、賛否同数。議長権限で現役員に留任をお願いし、次回役員会で最終決定、としました。

乐しく歓談しながらの昼食の後、交わりの会を持ちました。4年ぶりの事とて自己紹介に多くの時を費やし、私の聞きたかった今後の活動についてあまり深く意見交換できなかつたのが残念です。楽しい時間はあつという間に過ぎ去り、汽車（ティーゼルエンジンの山陰線・因美線・智頭鉄道は正しくは汽車でも電車でもない？…では何？列車？）の時間もあつて1時間半の時間を厳守。みな慌ただしく教会をあとにし、私も交わりの会終了後に支部役員会を設定していたのを忘れてしまつていきました！ 申し訳ありません。

私はその地で、太平洋戦争がはじまった1941（昭和16）年に生まれました。1945（昭和20）年の終戦時は3、4歳。当時のことはあまり覚えていませんが、不思議と一対のイメージが鮮明に浮かんできます。

暗い船倉と青空。

満州にいた私は、戦争が終わると引き揚げのため、両親、妹と一緒に葫蘆島から貨物船に乗つたそうです。

大きな貨物船の、明かりもほとんどない暗い船倉の中で、どのくらいの時間を過ごしたのでしょうか。「水葬」と言つて甲板から人の体を海に落としているのも見ましたが、気づけば下船して真っ青な青空の下にいました。暗い船倉から青い空の下に出たことが、スポーツで生かされました。心の片隅に封じ込めてきたものに光を灯してみます。

記憶の断片をたどつて
私の父は満州（中國東北部）の都市鐵嶺で、いわゆる満鉄（南満州鐵道）に勤めていました。父は昔のことを多くは語りませんでしたが、身長が低かつたためか、徵兵検査で不合格となり、満鉄に勤務することにしたそうです。博多港に着き桟橋を降りると、埠頭に並んで一人ずつ、白い粉を頭からすっぽりとかぶせられました。その時はなにをされているのかもわかりませんでしたが、後日両親が帰国時のこと話を話しているのを聞いて、白い粉が「DDT」という名前の殺虫剤であることを知り、そして消毒のためにかけられたことを知りました。

フラッシュバックする記憶

そうした体験がトラウマとなつたのでしょうか。小さい頃から海がきらいでいた。海水浴に誘われても、後に中学校で臨海学校に

行つても、海に入つて泳ぐことはできず、ただ眺めているだけでした。

引き揚げてからは鳥取にある父の生家に行きました。裸電球1個だけついた暗い部屋で生活を送ることになり、1948(昭和23)年、家のすぐ近くにあつた津ノ井小学校入学しました。

小学校ではその頃、髪が長い女の子にはシラミ退治が行われていました。月1回の身体測定の際に、担任の先生から木綿袋に入ったDDTを小麦粉をふるるようにかけられました。頭にかけられる度に博多港のことが思い出され、嫌な気分になりました。粉まみれの頭からは薬の臭いがしますが、そのまま数日は過ごさなければなりませんでした。それが小学4、5年まで続きました。

ズック靴のくじ引き

父は地元に戻つてから、鳥取市役所に勤務しました。当時、家族が無事にそろつていて、働き手がいるのは特別なことでした。父親を亡くした同級生もいましたし、貧しいために学校にお弁当を持参できない同級生もいます。

した。戦後しばらくたつてから、戦地から帰つくる兄を迎えて行つた先生もいました。

村には国から物資が支給され、小学校で配られましたが、十分な量はありません。みなが草履や下駄をはいていた時代に、ゴム底のズック靴が1クラスに2足だけ。先生も配付しないわけにはいかず、くじ引きを作つて当選者がもらえることになりました。たまたま私は当たった時は、周囲からの冷ややかな目つきを感じましたが、今となってみれば、それも無理からぬことだったでしょう。

地元の中学校卒業後、先生の勧めで生け花教室に通いはじめました。そこで知り合つた元鳥取教会伝道師の孫と後に結婚し、しばらくして洗礼を受けました。中高の恩師が2人とも鳥取教会の役員、教会学校の先生だったことを思うと、神さまとは見えない系でつながっていたのだとしみじみ感じています。

アダムス・富岡幸助・石井十次・山室軍平は岡山県が生んだキリスト教社会事業家です。キ障共の働きも、神の愛全人愛に基づく愛の実践であつて、障害とともに担おうとする実践、学びは形に見えなくとも大切な働きです。それに参加することが大切です。会費を納めるだけ、総会の委任状を出すだけではもつたいないです。学習会

シャローム誌に寄せて

日本基督教団 加東教会

栗原 正

原稿依頼をいただいたとき、私は岡山博愛会病院に入院中でした。毎朝礼拝から始まり、チャプレンか理事長かが聖書のみ言葉を語られます。博愛会はアダムス女史によつてはじめられた全人愛をモットーにした岡山唯一の全国で最初のセツルメントです。祈りを絶やさず、すべての人を愛する、病んでいる人、困難を覚えている人、不自由を覚える人、貧しい人、虐げられている人すべてに人を差別なく愛する、全人愛を四十五年間続けてきました。そして更井良夫理事長に、さらに更井哲夫理事長に受け継がれています。

戦争はさまざまな苦しみを多くの人に与えました。「神は愛なり」(ヨハネ4・16、文語訳)とのみことばを心に留め、一人ひとり平和への道を進んでいかなければと思つています。

を計画し、講師の依頼をし、シャロームの原稿を依頼し、痛い手を使って編集の労をなさつてくださる方の奉仕があつてキ障共の歯車が動いています。

私は入院中時間があつたので、普段読み過ごしていた信徒の友の記事を隅々まで読みました。その中で「幸せなら手を叩こう」の作詞をされた木村利人さんが、「平和を態度に示していこう」という文章を書いておられます。キ障共の望むところも差別のない平和な社会を目指しています。そのためには私たちは行動しなければなりません。態度に表すことが大事です。主のみ言葉を單に聞くだけで済ませないで、それを行うことが大切なよう。キ障共のいろんな働きに参加しましよう。体力がなくて参加できないときは、祈りで参加しましよう。シャローム誌をしつかり読みましょう。

以上私に言い聞かせている言葉です。普段何かにつけ怠つてている私をお許しください。

少しづつ変えられていく私

日本基督教団 旭東教会

成本 書子

岡山市の「心のふれあい旅行」が四年振りに実施されることになった。計画され公報紙に発表されたがコロナ状況下で参加者が少なくて実施されなかつた。今年度は色々が解禁されたためなのか、申込者が殺到した。お断りした人もいる程だつた。感染予防対策をして、参加したい。

コロナが流行したことは、表面の差別から昔からの思いが浮き出でてきている。

行きたいと思っている人は、早くに申し込む。行かない人たちも様々だ。自粛期間に恐れる余りに動かなかつたとの事。運動不足になり、体力が落ちた人達。家族が居る人は、感染が気になるとか、同居家族の反対があつて断つて来る。

百年前のスペイン風邪が今回のコロナと類似している。もつと言えば、聖書でも同じ風景を思つ。

私はどうだろつか、あまり変わってない。

神の時と私のそれは長さが違うと思つた。差別も色々と違つことに気がついた。それには続けることが大切ではないか。これこそが神様に変えられたといひだ。

心を貢くして主に信頼し、自分の分別には頼らず常に主を覚えて

あなたの道を歩け。
そうすれば、主はあなたの道筋をまつすぐにして下さる。

箴言3・5～6

ともに支え、ともに生きる

島村 洋子

令和四年末、倉敷教会会員であつた母（須美江／号・翠月）が召天いたしました。

当日まで元気に過ごしておりましたので、突然の別れに家族一同、動搖と深い悲しみの中で大晦日に葬儀を終えました。母は学生の頃から教会に通い、深い信仰を持っておりました。また書道家として教会の毎週の看板を数十年書き、聖書の言葉を優劣を

競わず思い思ひに書く「聖句書道」の活動にも尽力しておりました。そのようなことから、年末のお忙しい中にもかかわらず、本当にたくさんの方々がお別れに来てくださいり、皆さまへの感謝の気持ちと共に母の偉大きさを改めて感じ涙が止まりませんでした。

母には三人息子がおり私は長男の嫁になります。長男（私の夫）は約二十年前、怪我により脳に障害を負いました。半身不随、言語障害などもあり、当時はまだ子供達も幼かったので、これからどのように生きていくべき良いだらうかと思い悩む日々を送っていました。幸い同居しております。父も母も信仰心が深く、本当に心の優しい人達なので、辛い時は一緒に泣いて困った時は相談にのってくれ、沢山支えてくれました。特に母は倉敷教員でしたので色々な方から情報を聞いて教えてくれたり、障害者について沢山調べ勉強してくれました。音楽療法を教会員の方から受けたことが出来、言葉はなかなか出てこないのに歌ならスラスラと歌えてビックリしたことが懐かしく思い出されます。

「洋ちゃんは我が家の太陽」といつも言つてくれた母でしたが、母こそが我が家の大陽だと今は天に向かって話しかけています。

家族の形は変わりました。これからも辛く悲しい事があると思いますが、楽しい事もそれ以上に経験して、家族は勿論、色んな方々と共に支え、支えられて生きて行きたいと思います。

一人の方は一人住まい。体が少し不自由なので教会に来られていません。さて教会で礼拝と共に捧げたいでしよう!と思つてくださり会費もいだだいて恐縮しています。お花をお贈りするとしても喜んでください、お詫びもし、元氣をじただきました。健康が護られますように心からお祈りしました。

二人の方も岡山市ではなく倉敷方面に住まわれていて、住んでるところが分かりよかったです。

信仰の先輩に出会い、励まし、支えあつ交わりをさせていただいている恵みをあらためて思い、神さまに感謝します。

欠席者の方に重を手分けして、お花を届けるので、私も参加させていただきました。三人の方に届けるのですが、どの方も蕃山町教会から遠く、タクシーと電車を乗り継いで来られる方もいます。自転車で十五分の私は、身が引き締まる思いがいたしました。

花の日の合同礼拝

日本基督教団

蕃山町教会

料治睦美

蕃山町教会では、五月十四日に教会学校との花の日合同礼拝をしました。私たちの教会に多くの子どもたちが招かれていることに感謝し、キリストにある一つの家族とされて、共にみ言葉を聴き、賛美を捧げました。

礼拝後に七五歳以上の方にお花が贈られ、私もいたときました。ちょっとぴり複雑な気持ちがしましたが、嬉しかったです。

会 計 報 告

2023年7月～2023年8月

会計 宮脇俊昭

収 入		支 出	
会費(4名) (うち2名は2年分) 賛助会員会費 (会費累計23名)	12,000 3,000 (51,000)	シャローム 発送費	9,494
		会議費	5,820
		交通費 役員会(7/14)	3,820
		会場費 役員会(7/14)	2,000
		全国キ障協	46,480
		負担金 23年度会費(負担金)	30,000
		参加費	8,800
		交通費 (7000円補助あり)	7,680
		修繕費 紙折り機修理	15,400
事務消耗品費 払い込み通知・手数料			837
小 計	15,000	小 計	78,031
前 月 より	726,739	次 月 へ	663,708
合 計	741,739	合 計	741,739

〔会費・献金の納入を、感謝申し上げます。〕

個別の領収証を希望される方は、遠慮なく
お申し出ください。従来通り送付いたします。
よろしくお願ひいたします。

(敬称略・順不同)

8月末現在資金残高	
定額預金	500,000
普通預金	213,358
振替口座	20,347
現金	8,034
合 計	741,739

(年会費)

改革バプテスト米子キリスト教会 斎藤敏行・斎藤由美子(2年)

日本基督教団倉吉教会 山口収・山本千寿子

カトリック倉吉教会

(献金)

無し

以上

編集後記

難波 幸矢

愛するキ障共会員の皆様いかがお過ごしですか。いつまでも暑いですね。異常気象の中でニュースなどでは人参が掘り出す前に土の中で煮えている状態で見つかったとか、ホウレン草の葉っぱが収穫前にまるで焼けている状態だと見せてくれます。ピーマンもトマトもしかり。ここまで行くのかと呟いてしまいます。19日朝のニュースでは場所は忘れましたが桜が咲いているところをNHKのカメラが写していました。異常気象はそれだけではなく豪雨の中で洪水やかけ崩れを起こし、家を押し流していきます。「全て失った」という人を見ました。

自然界の異常ばかりではなく世界中があつちでもこつちでも戦争戦争です。為政者はなぜ過去の辛い戦争から学はないのでしょうか。「私こそ正義だ」と思つたら周りや前後が見えなくなるのでしょうか。恐怖の連鎖を生み出しています。戦争は一度始めたら出口はなかなか見つかりません。終わらせる」とは至難の業です。本当に愚かなことです。

加えて福島では結局汚染水を海に流すことにになりました。これはそもそも原発を作った段階から分かっていたことです。政府から説明があるはずの、「その時には説明する」などと言つておきながら結局何の説明もないまま放流。おとなしい国民は騙されっぱなしです。日本原子力学会の廃炉検討委員会が示したものによりますと、敷地全体で人の自由な出入りが可能になるのは100年後との事です。あれもこれも呟く事ばかりですね。

さて遅くなりましたがシャローム159号をお送りします。鳥取側、岡山側の各所から投稿して頂きました。貴方の友人だったでしょうか。次はあなたも投稿して下さいね。

終わりになりましたが、以前に掲載させて頂いた松岡さんからましたが、9月26日午後2時5分から30分までの放映とのことで、このシャロームの発送が28日で間にあいません。たまたまNHK総合(全国放送)で見になれたらい幸いです。

それでも少し秋を感じるの2、3日です。
くれぐれもお体に気を付けて乗り切って下さい。

2024年度 総会	
日時	11月30日
場所	日本基督教団 岡山教会

「シャローム」 第一五九号	
発行日	二〇二三年九月二十八日
発行所	東中國キリスト者
発行人	事務局長 難波幸矢 〒七〇三一八二六五
電話	岡山市中区倉田六五八一八一
振替	〇三一〇〇九〇七六九
加入者	「東中國キリスト者」